

遠時
2378
129

煎茶早指南

尾礫舎主人著
月樵老人畱画

全本一冊

此書尾陽の人尾礫舎の著述なり。遊外高
賣茶翁の肖像を模写し、翁が煎茶の具不故
和漢の茶道具を畫し出、煎茶の式を季論され
これ、純中煎茶の水加減、朝夕不用の大小蓋あり
毎家不道な番茶の類も此法を以て
増減を加へ時ハ可なり、愛下へ喜撰一森
庵の丸の高味をあり、夏ハ巻中、冬ハ
見えず、同好の雅客、其其後論を
圖ハ先哲の格言、詳あるを、
寶小早指南の書なり、このものなり



全二十部卷

習

井屋坊城
全盛合奏

一對男時々歌川

伊賀屋勘左衛門版



意中ハ、
對の衣裝ハ、寛潤ナリ、
西川風ハ、
花ハ、
柄襦袢、
此繪ハ、
乃ハ、

善惡相形
禍福自見
人作人戒
人勸善為

江戸式亭三馬編





御古大夫擲屋人之圖

懐の懐
有縁海社
の懐
世の
懐



大儀乃逸君
三浦屋
揚雲
入の屋之
体



海賊張本
 玄海灘石衛門
 寶筑前博多港
 榊巷
 茨城道齋
 玄と合...
 座...
 賊徒三千人...
 海濱唐銅大佛...
 胎肉...
 悪行盗碩...
 層...



人...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 長明

金心鉄腸



法衣くま
後生筋のや
すまひと

相撲人、淀鯉水之助
・實名井屋譜代
新兵衛
・子新之助
・實鬼角兵衛捨子

菅公御詠

月明 蘆花



沈魚 落雁

初五郎妹 お小夜

後博多の
遊君
小女郎

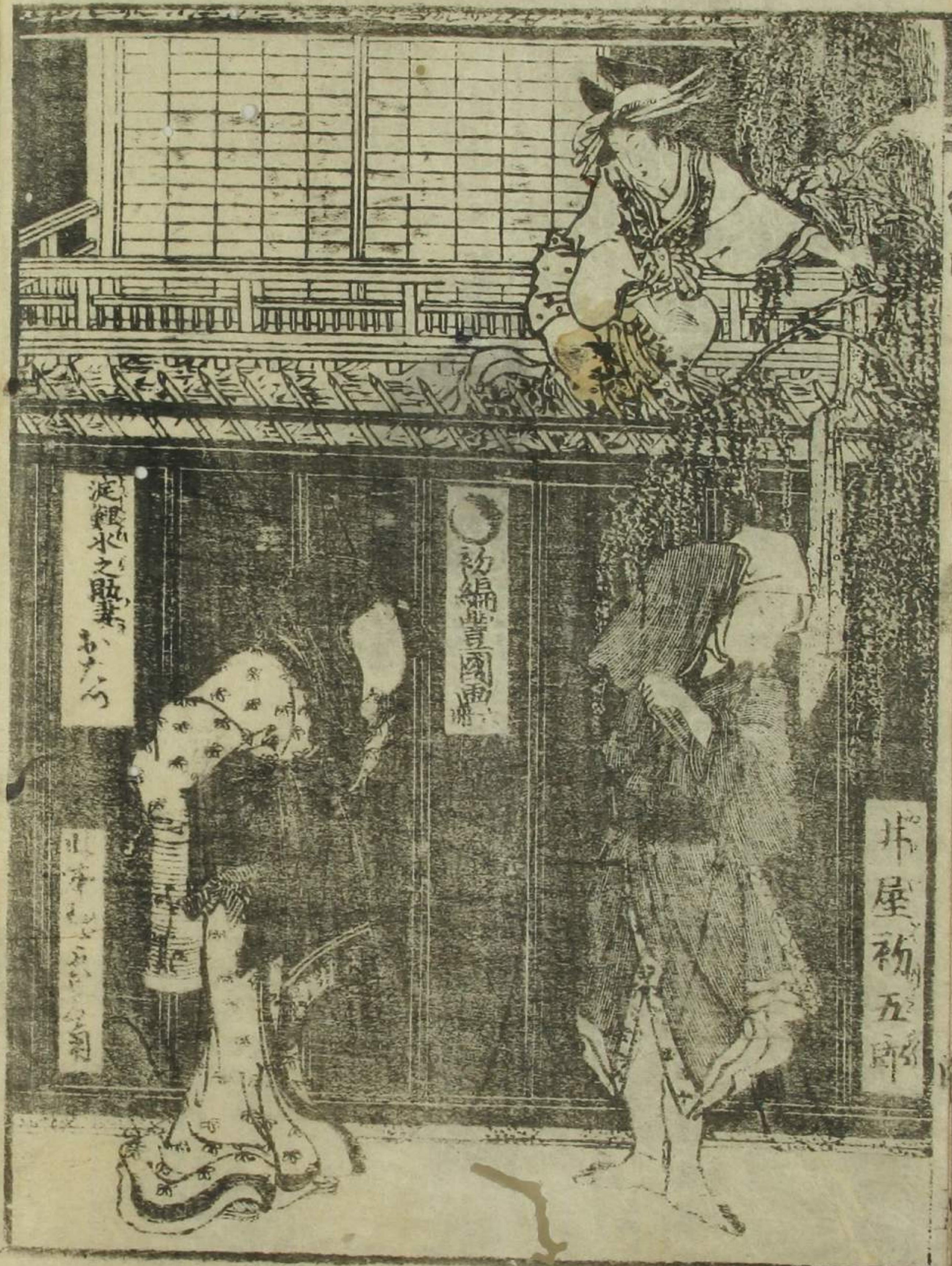
なげの巻 きくえぬ
別とひそけ
あつはま
すか



小賊。鬼の角兵衛

屠肆 餓狸
善
悲籠

二之卷





本支のそとあり... 詠話と書す宗皇帝... 揚貴妃とて今あるのあまの... ありけのせうんく... ありふして... 花のたれを... 帝なるおあ... 貴妃が方人... 今一の... ぼの... ちの... 舟の... 幹林... 本... 小...

今一の... ぼの... ちの... 舟の... 幹林... 本... 小... 詠話と書す宗皇帝... 揚貴妃とて今あるのあまの... ありけのせうんく... ありふして... 花のたれを... 帝なるおあ... 貴妃が方人... 今一の... ぼの... ちの... 舟の... 幹林... 本... 小...

十二の... 石の... 白の...



そのついでに... 輪林... 女...



上の... 女房... 狂言...

あつて... 油... 女...



あつて... 女房... 狂言...



らふ又つらうさへは...
 の町へ唐物町...
 小町や...
 の内と...
 町へ...

一



えは...
 の...
 の...
 の...
 の...

...
 ...
 ...
 ...

ついでに... 唐おあまの... 女あまの... 町人の...



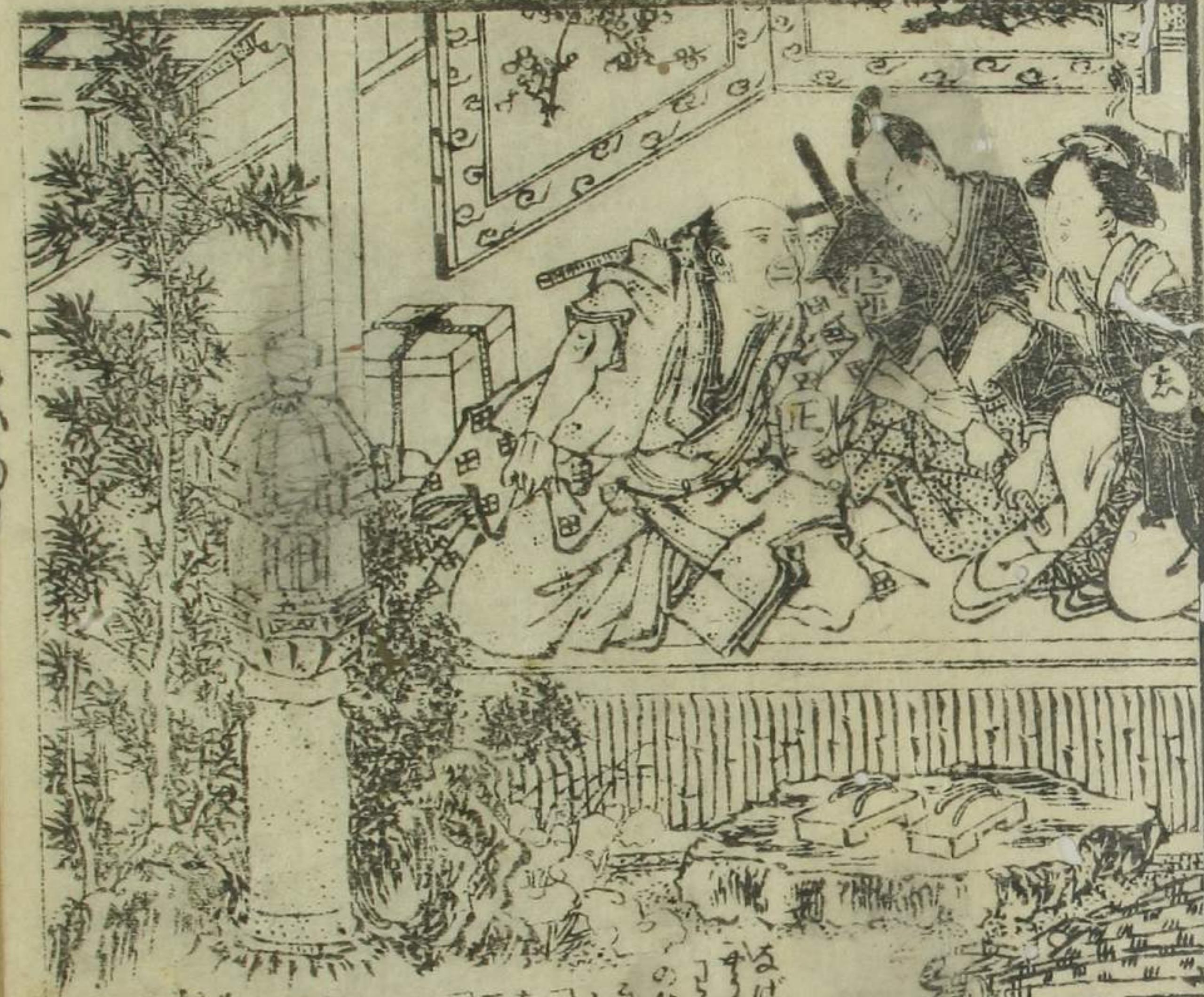
あまの... 唐おあまの... 女あまの... 町人の...



あまの... 唐おあまの... 女あまの... 町人の...



山崎 藤樹 先生 遺稿 卷之八
 此の巻は 先生 遺稿 卷之八
 此の巻は 先生 遺稿 卷之八



先生 遺稿 卷之八
 此の巻は 先生 遺稿 卷之八
 此の巻は 先生 遺稿 卷之八



先生 遺稿 卷之八
 此の巻は 先生 遺稿 卷之八
 此の巻は 先生 遺稿 卷之八

四之巻



Illustration of a person in a patterned kimono holding a long staff or sword. The person is depicted in a dynamic, slightly twisted pose. The background is filled with dense, vertical Japanese text.

善 おとやケリのたぐい
 法眼がまがき
 せいりんののりり
 たうまらとものし
 ねまよりのあふ
 りの中きり人の
 射のめをが
 ふうんご
 かぎんご
 初めり
 びりり
 して古
 さんそ
 うりり
 うりり
 ちりり
 ちりり



Illustration of a person kneeling in prayer and a wooden box. The person is shown in profile, facing left, with hands clasped in a prayerful gesture. The box is rectangular with two small square openings on its front face. The background contains vertical Japanese text.

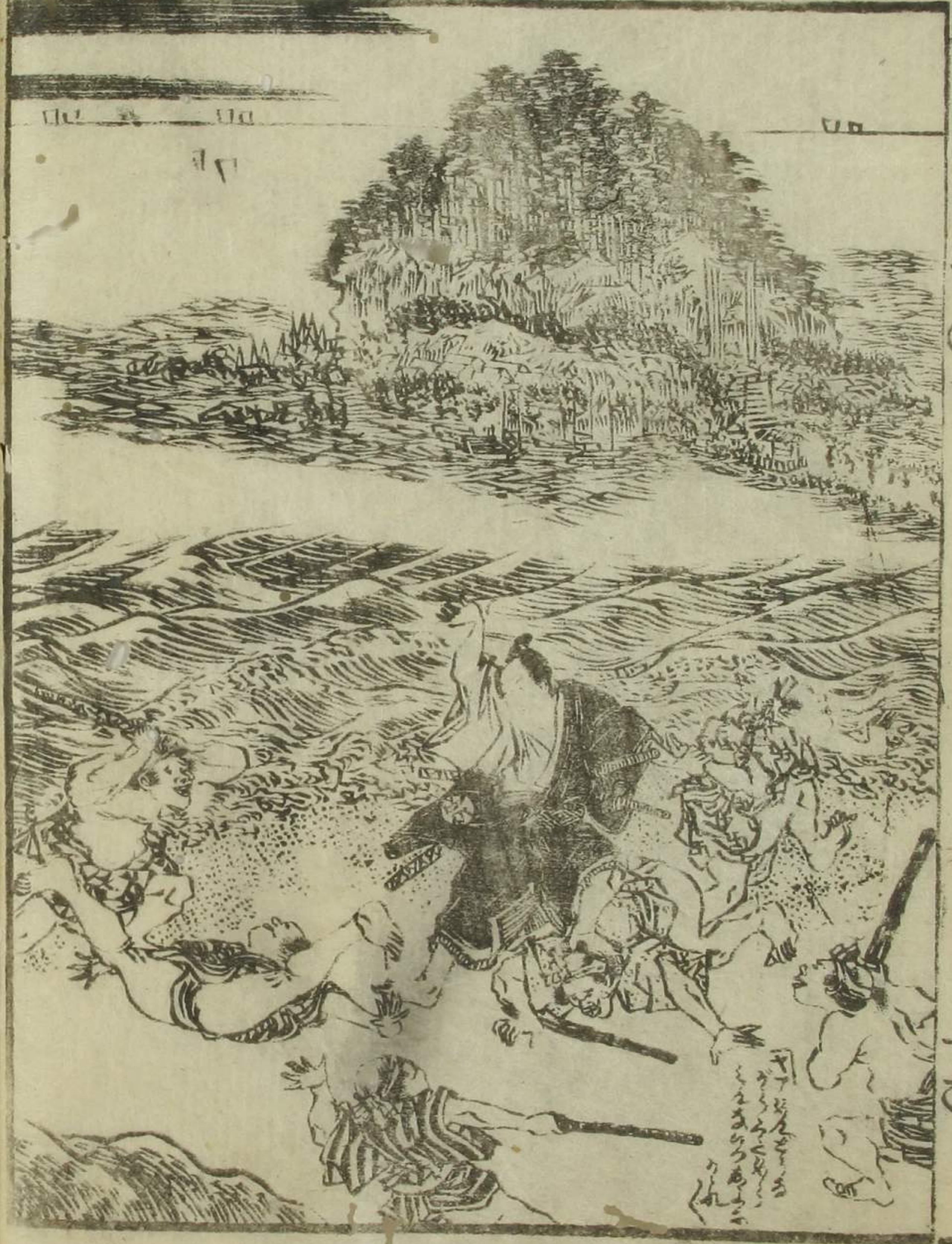
Illustration of a person in a dark kimono holding a large, cylindrical object, possibly a drum or a large pot. The person is standing and looking towards the right. The background is filled with dense, vertical Japanese text.



Illustration of a person in a dark kimono holding a large, cylindrical object. The person is standing and looking towards the right. The background is filled with dense, vertical Japanese text.



二八



...



此の世に...
 一人の身...
 女のお...
 一人の身...
 女のお...

此の世に...
 一人の身...
 女のお...



此の世に...
 一人の身...
 女のお...

銅の佛の街に首の裡の面之の圖



ちゆれさのぞりて人をちよりの
あひらのそとあかりあまの
あふいのそとあかりあまの
あふいのそとあかりあまの

わいの
こぞ
まは

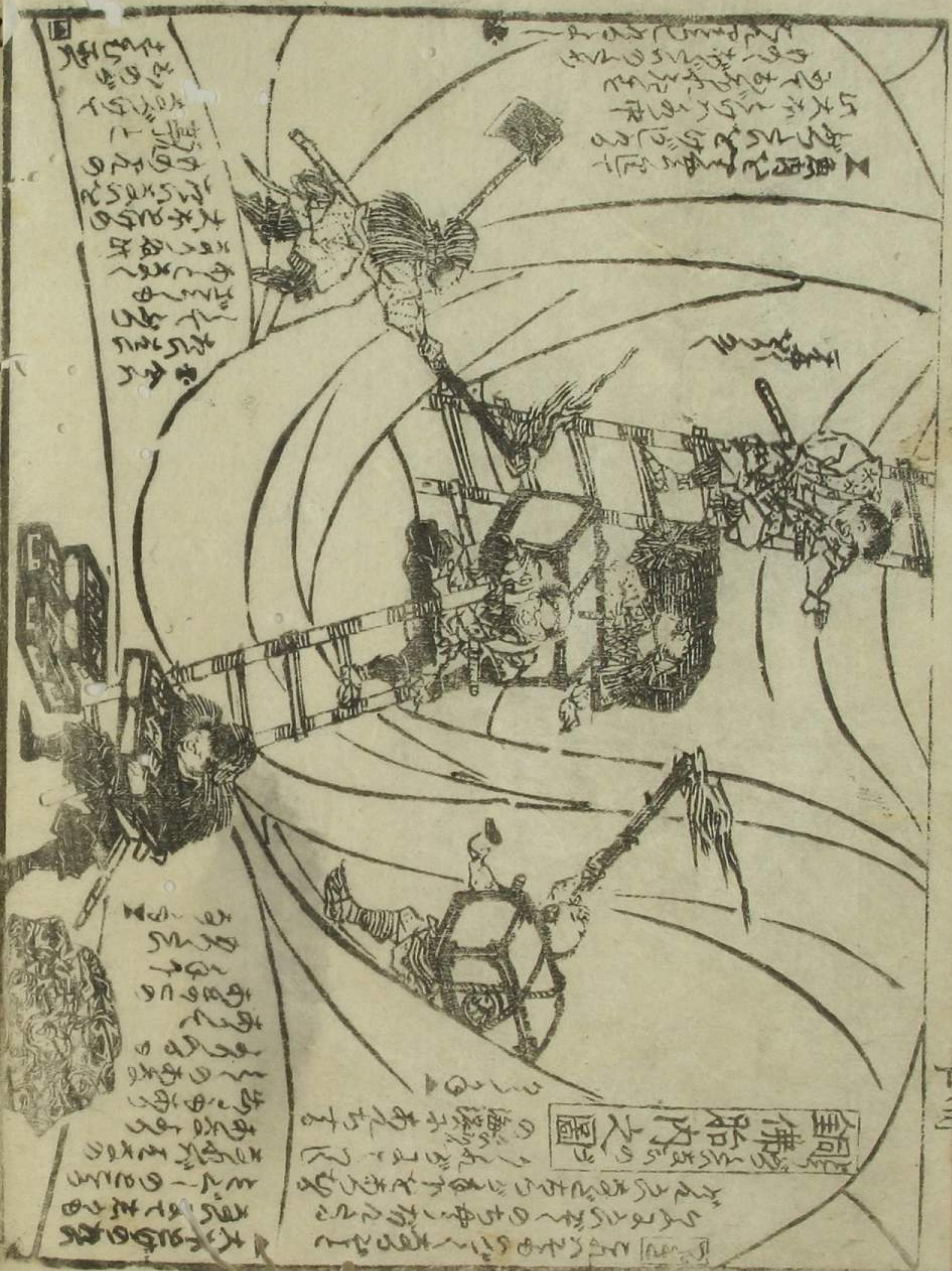
天は
をま
で火と
あつ
さる



よを
わいの
こぞ
まは

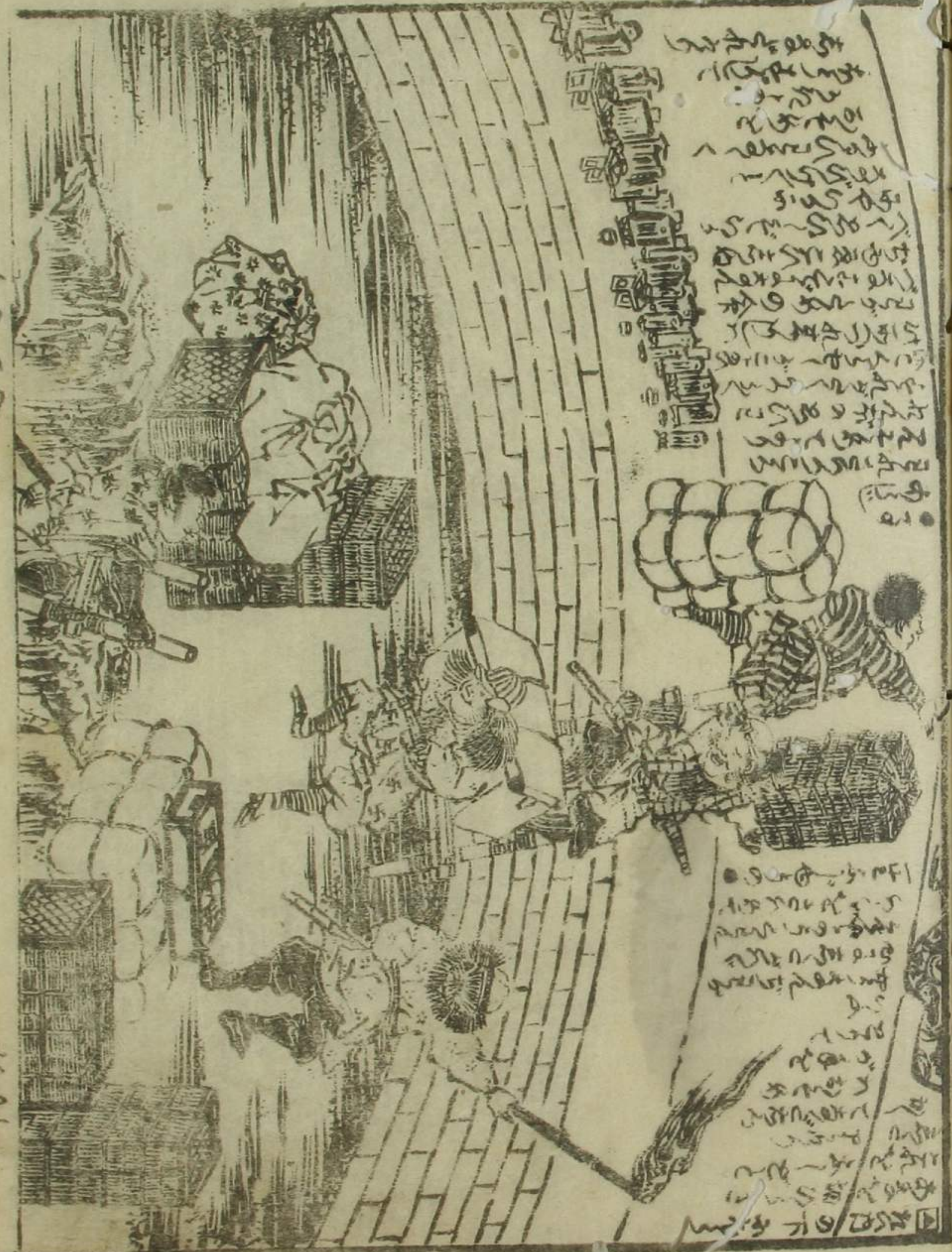
わいの
こぞ
まは

あつ
さる
さる



銅佛胎内之圖

大正十一年三月廿一日
東京府立博物館
銅佛胎内之圖
此圖係根據
東京府立博物館
所藏之銅佛胎
內之圖所繪
者也。此圖
係根據東京
府立博物館
所藏之銅佛
胎內之圖所
繪者也。此
圖係根據東
京府立博物
館所藏之銅
佛胎內之圖
所繪者也。



1008

1009

此圖係根據
東京府立博物
館所藏之銅
佛胎內之圖
所繪者也。此
圖係根據東
京府立博物
館所藏之銅
佛胎內之圖
所繪者也。



10080

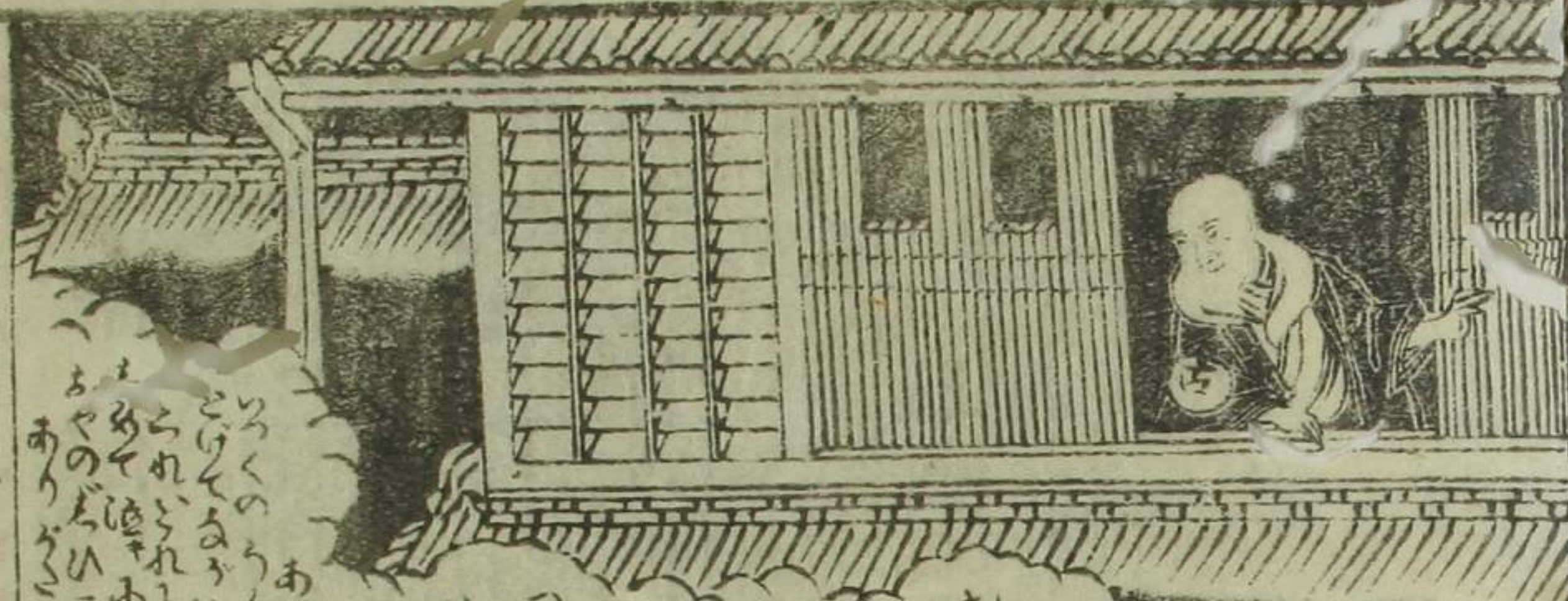
the
woman
is
the
mother
of
the
child

10081

其の如く

Handwritten text in a cursive style, likely a commentary or a story related to the illustration on the left page. The text is arranged in vertical columns, starting from the top right and moving downwards. The characters are densely packed and difficult to read without specialized knowledge of the script.





あはれあはれを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを



あはれあはれを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを

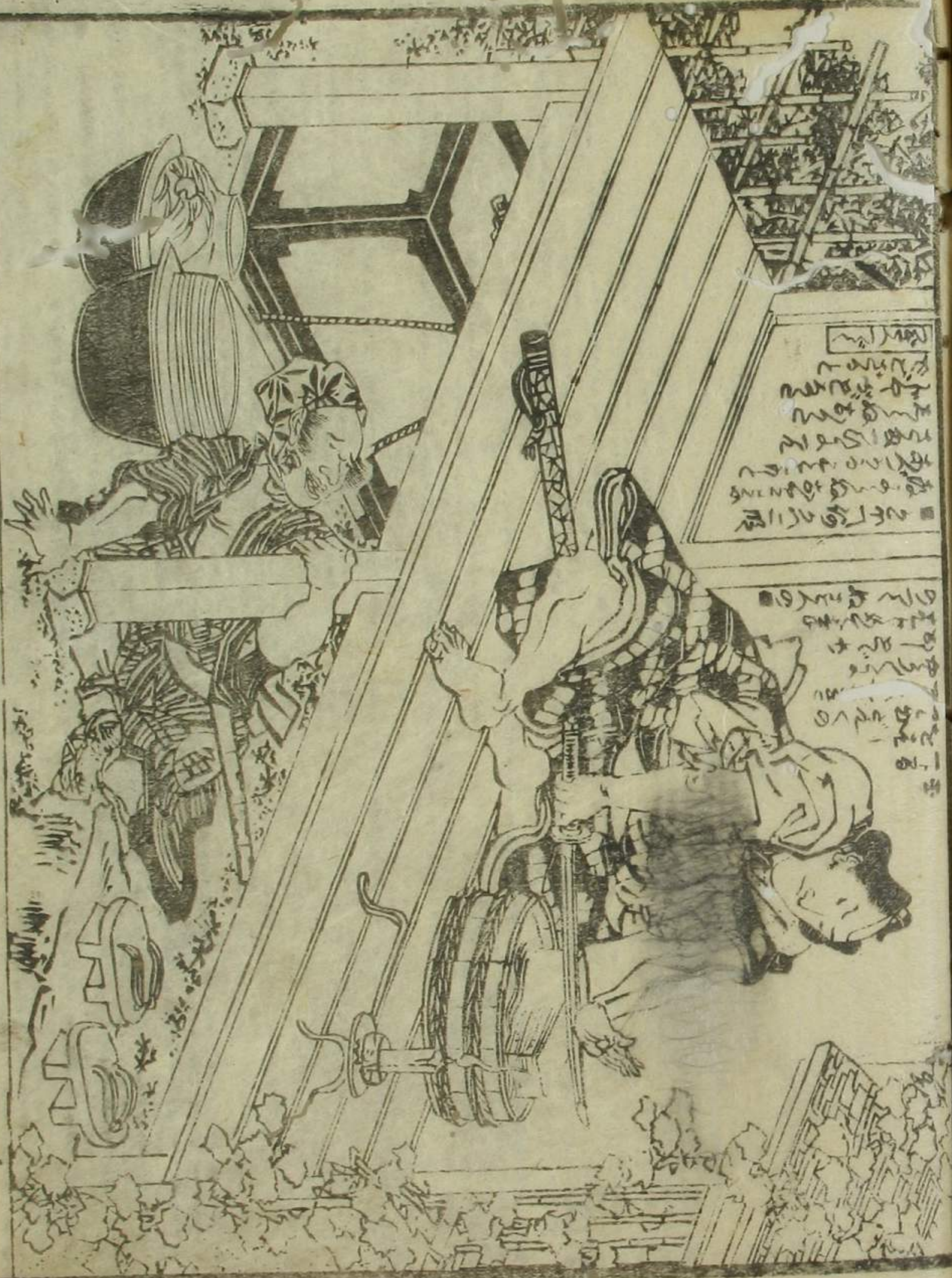


あはれあはれを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを

あはれあはれを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを



あはれあはれを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを
おのゝけを



■ 此の如く
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百



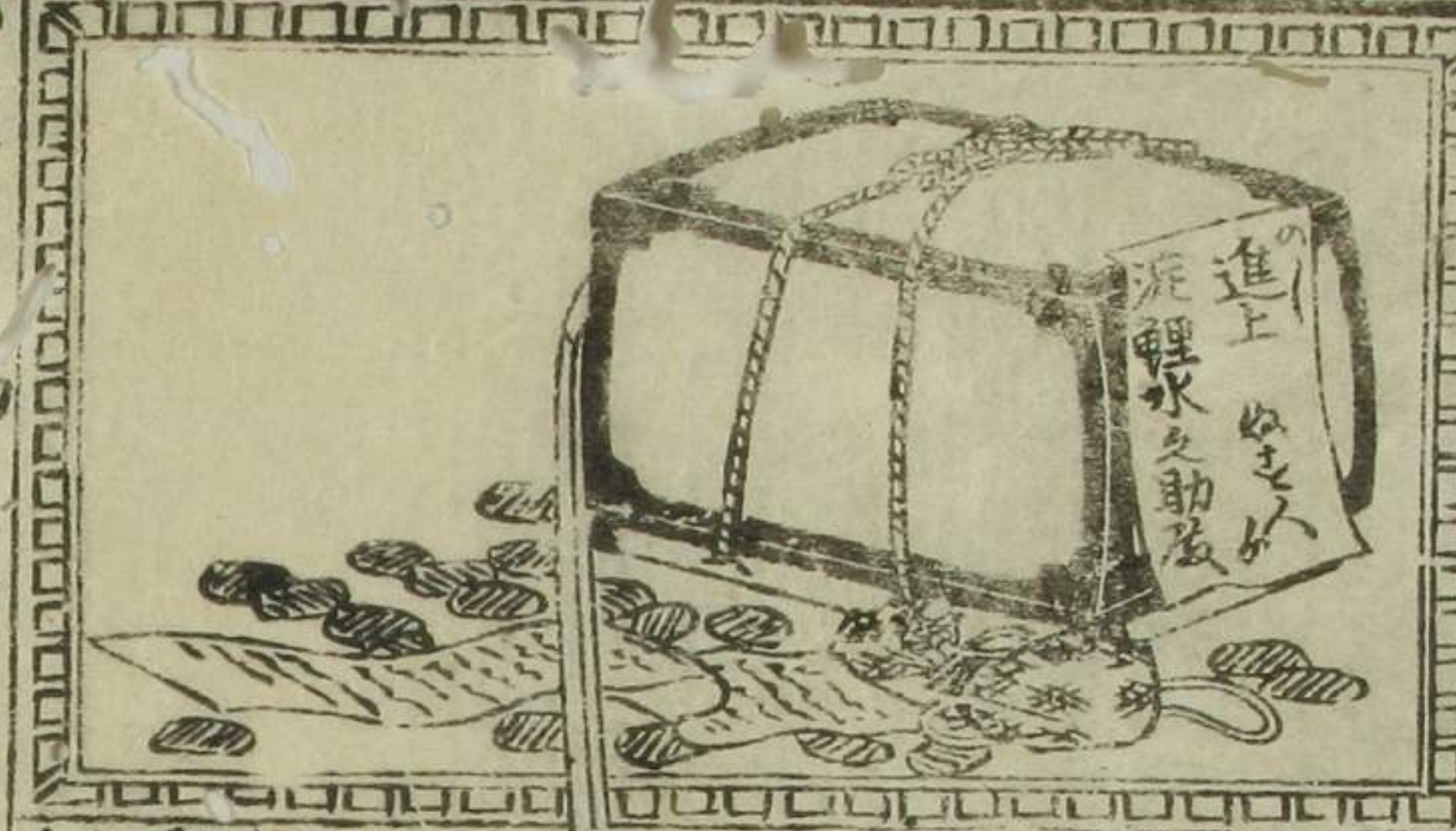
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

此の書は、
 進上 ぬまが
 泥鯉水之助後

曲上國畫

式亭三馬編



○これより二冊目哥川豊廣後日のもも本を...
 ありさうふらふの...
 板元

尾張名古屋 東壁堂藏版畧目録

俳諧五七集 全五冊

批把園士朗翁著
 士朗先生俳諧の書数篇を著述

此書は、
 意味深く地道な遊筆の逸鑑とあり

批把園類題發句集 初編二編 全三冊

梅花園先生撰輯

士朗翁一冊の發句集より四本を雜の部を
 分ち題毎少數の發句を載せ初編
 の筆題小隨て句を作せき弁要重宝の書

御書札文 梅屋先生筆 全一冊

先生肉筆の如く彫刻精工の臨本を
 師を求むるが如き最上の手本あり

早速千字文 梅屋先生筆 全一冊

此千字文ハ雅俗手紙の案文に用ひの文
 字をのりて草書に書きしめられ末六楷書
 字を練りての解易書體をせられれば書を
 學ぶ人の爲に至る重宝の書あり

消息案文 黒澤翁撰 全一冊

世に消息の書は、
 皆して雅文の用をなす...
 文章を考へて所要の便利をなす日
 用益あり至宝の書あり

批把園士朗七部集 每編二冊 全十冊

朱樹叟士朗撰

此七部集、蕉翁の句集、玉音齋、撰、小似、其、雙の骨、隨、其、骨、推、を、ほ、く、書、小、其、集、毎、小、高、名、俳、師、の、文、あり、道、小、進、入、正、風、骨、肉、を、採、ん、必、用、の、集、あり

初編 飲中八仙、口笛、麻、り、口、笛、

二編 搦日記、文化、の、仙、竹、本、号、五、及、

三編 松の炭、琵琶、歌、ま、る、の、夜、ま、り、

四編 法、法、華、經、ま、ま、ら、ま、ま、ら、

五編 長、長、年、林、野、子、み、る、也、ま、る、也、

手紙早引集 両面一枚摺

常、小、通、用、せ、る、手、紙、の、文、言、を、い、ら、け、小、多、し、て、童、蒙、の、手、本、と、し、て、重、宝、あり

十躰十字文 両面一枚摺

金師系圖 両面一枚摺

弘安の頃、北条、義、時、の、二、男、朝、時、の、五、代、七、郎、左、門、を、始、祖、と、し、て、文、政、の、頃、ま、た、の、鑄、物、師、名、人、の、家、系、を、委、一、く、あ、る、せ、り

牧民忠告解 樋口好吉先生著 全一冊

此書、ハ、元、の、代、西、臺、中、張、希、孟、と、い、ふ、人、其、代、の、郡、縣、を、治、る、為、に、作、ら、し、る、書、あり、高、唐、の、郡、從、吉、と、い、ふ、人、此、書、を、得、て、希、孟、が、意、を、傳、へ、行、ひ、け、し、其、邑、大、い、小、治、り、し、と、の、牧民、の、考、ふ、と、い、ふ、書、あり

天文四星風雨考 両面一枚摺

點竄指南録 坂井先生著述 全十五冊

此、算、法、ハ、日、用、の、相、場、利、足、求、積、田、畑、の、取、箇、の、諸、算、法、の、深、術、と、い、ふ、古、今、未、曾、有、の、算、法、の、書、あり

早見萬宝大通考 萬山堂撰 全一冊

此書、ハ、相、場、之、利、及、び、掛、算、の、法、一、く、有、り、た、六、六、金、何、程、あ、り、も、石、數、代、金、を、あ、る、小、相、場、を、置、不、を、か、く、れ、な、り、早、算、用、の、秘、書、あり

草木性譜 舎人清原重臣撰 全三冊

此書、ハ、山、野、田、圃、の、草、木、の、中、奇、異、の、を、あ、る、漢、名、和、名、方、言、を、い、ら、く、あ、る、と

日用曆談 小林隨景先生著 全一冊

世、上、小、日、用、の、曆、と、い、ふ、の、其、年、の、吉、凶、を、教、め、り、の、め、る、れ、天、下、の、人、是、小、隨、景、を、求、知、る、小、必、ず、遠、く、遠、く、求、む、る、も、其、意、を、會、得、せ、し、し、疎、小、あり、て、大、事、を、過、者、を、み、り、て、此、書、と、其、年、の、曆、と、を、い、ら、せ、方、宜、を、行、ふ、に、古、今、を、あ、る、書、あり

渡世肝要記 全二冊

士、農、工、商、の、守、業、を、い、ら、し、て、教、訓、の、旨、を、記、し、給、ふ、と、い、へ、見、る、見、る、本、と

立花常用集 全一冊

立花獨著 昔古小便覽の書 立花の遺書を委しく寫し指方をあつて初心の見合とあり 師小松ふとく 題をさして書こ

碁經奕範 服部因叔著 全二冊

此書一局毎の打廻しを備ふ出 一偶といふも妙手あり 石室子れ局中こころく 寢をこころ心ゆくあるやりの

碁經奕筌 服部因碩著 全二冊

此書ハ打方の評論を奉て初心の者ハ便利といふの術小松ふとくハ克爾記すといふあつて妙手不至るべきを載り

其石亭子談 故本因坊作 物 全一冊

咄屑菴養拙校

人相早合点 両面一枚摺

人相手の勝貴賤貧福壽文の事 色相吉凶を知り便覽の更をのべり

易道早合点 両面一枚摺

商賈の損益預聖の成不成病人の吉凶勝負の吉悪を志す事を志せり

諸禮大學 洞尾先生著

幼き男女教(あ)るる言あるも悪き道小松真人の常あれ先生云く患の諸禮の志の行ひの肝要を平假名文章小

つづねを解し其を孝行 忠信の徳小松を師の教を志せり 自

合方書摘要 小川宗本先生撰 全五冊

諸記百家の名方万巻をのむといふ 保記を簡記する 變かこころあり 珠の書 數百丁のしり 濟用小要 手條 稀あり 此書ハ万巻の書を抜取し 求る 弁要を 旨として先生丹誠をこころ 諸先生方類を うのを苦心を助んといふの撰集あり

醫家千字文 貞菴淺井先生校 全一冊

此千字文ハ永仁年中散位正五位の下時俊が撰のし 医道要用の文字を奉て 文り 初めより大益ある書といふべし

養生要論 鈴木離屋先生著述 全一冊

長壽壯健の人自然ニ養生の道あり 眞先生七十餘歳の養生の更を志すべし

日用藥品考 溶齋先生著 全一冊

此書ハ医家日用の藥品其爲を 兼鋪中 種々の名稱 印璫を委し 載て 医家日用の便利 小貯(を)坐す 小あつて 有益の書

延壽養生談 全一冊

養生の極秘を明ふるを 數百條を あつて 無病長壽を保更を志す

物品識名 水谷先生著 全二冊

水と金石草木禽獸虫魚小至るる 其漢名和名を国字で分類 漢名出所の書目を載て 在州家小益ある書あり

痘瘡如藥集 山崎九華先生著 全一冊

妙藥手引草 申齊主人著 全一冊

古方通覽 佐藤春杏著 全一冊

直毘靈 本居先生著 全一冊

此書ハ白王国の傳正トシテ其書を傳へ古夏
記傳の首卷との長き書をあれは珍書ト
書かれハ一巻を以て普く世に流るの珍書ト

日用晴雨管窺 全一冊

凡年中の晴雨風雲ハ量多ク其變
此書ハ晴雨を採出を小司天の術ハ
の道理を和解し風雨霜雪雷虹現地
震月の暈ホの長論五運六氣の理を
究天地の機密を定し晴雨を知る
五穀豐凶の格論を詳し其卷中の
を附記して方夏を行ハ身をまもり
生を養ふ夏をのべ人間至宝の書ト

菩薩戒童蒙談抄 全一冊

賢光禪師著述
此書ハ十戒をもち諸の善根功德を生
ずる夏を童蒙の爲し其書を以て
二書撰ぶるべきトリと教ハの書あり

和歌五百題 全一冊

冷泉為村卿 四季雜
鳥丸光胤卿 意混雜

和歌五百題 毎小詠歌を撰集し
和歌學ハ執心の筆の便利ハ備ふ

後撰和歌集新抄 全十五冊

此書ハ真淵契仲本居その外諸先
生の高説を悉く参考し先人未發
の自考をまじり古實規式をとり
詞の證例して小を以てのまを
解せし本居大平翁石原正明先生
小の説并小考略をらるるものと
國字を學ぶ人ハ必用の書といふべし

狂歌作者部類 全二冊

此書ハ頭書ハ狂歌を載下小當附の
諸名家の奏詠を集め住所俗稱を
くわく記し歌トむのくまかきあは
たひるた珍書といふべし

三大考 本居先生門人 全一冊

日月と大地との三つの始其あり形を
小あり一家の新説をりし古事記
傳十七卷の附録ハありし夏をらる
あしし未發の書あり

念佛行者現生護念之圖一枚摺

念佛無量の功徳
を記し弥陀の應驗利益のありし
をを注し圖をらるる一枚あり

永平道元禪師行狀之圖

画笈帛一枚摺 二幅

此禪師ハ越前永平寺の開山小しと
久我内大臣の御子御母ハ九條関白基
房公の御女あり 正治二年正月降誕あ
りて四支の御時より 勤學まましく かつ
出塵の志しを發し 剃髮ありて其
後入宋し 海渡の道とて 風波の
難小あひぬ 粉骨碎身の勞を經て 序
朝ありて 恙あり 由來越前国吉祥山
の故事 嗟哉 帝の朝小して 紫衣を
賜りし事 五十四支小し 一偈を
書し 遷化ありて 支とともごとく
画首小字し 其道徳を仰せむ
べき大幅の掛りの也

本居宣長之像 正面摺一枚

鈴の屋舜菴の翁ハ真淵翁の門小入
古學を習ひ 其業せ小盛るる 支の
箱の博識小起りし 兩より 徳を
稱する者少かり 實小いそ 肖像を写
し 讚を加へ 石摺の正面打小あす 一の

敬の字 水戸黄門公御作 正面摺一枚

此一枚は 元禄年中 國中 御命
ありし 有が 此教の 御作 支あり

繪本山の山科 全二冊

法橋玉山先生画
此草紙ハ人情を穿て 読入腹を抱へ
面白き 咄を集る 冊子あり

北齋漫画

自初編至十五編 各一冊

前北齋為一翁也先生筆

此画譜ハ先生七十余年 獨學 一流の
巧をあり 古今小比類の 凡種の 繪物
あり 其筆小あり かつ 普く 海内
其名を 東に 西に あり 世の 人
の 画風を 慕ふ 遠國 他郷 にも
此 画譜を ありて 寫し 自在を得て
痛小 不 事 あり 世 小 画を ま
る 者 此 編を 野 坐 右 小 せ づ
ろ たり 實 小 近 世 獨 歩 の 名 筆
あり 宇宙 あり 人物 花
鳥 山水 草木 禽獸 魚 品 物 至
中心 物 あり 奇巧 精密
筆を 震し 未曾 有の 画 本 あり

北齋画譜

全三冊

前北齋為一老人筆

先生 凡 小 筆を ませ 奇巧
精 密 量の 妙を 顯せ 画 あり

繪本庭訓往來

全三冊

前北齋為一老人筆

本 文 小 合 所 在 人 物 鳥 獸 其 外 の
品 物 小 至 了 未 來 小 摸 寫 解
其 小 易 書 画 小 亦 あり 解
其 小 妙 を 盡 され 画 本 あり

繪本女今川

同筆 全一冊

女 今 川 の 文 章 小 亦 巧 筆 小 隨 變 化 を 寫 せ 画 本 あり

浮世画譜 初編 全一冊

漢齊英泉翁筆

此画譜ハ浮世画をまづる初心乃
筆の臨本とるを記し有る益の画
本あり先生の筆小なる繪本
世小なる一といふ一家の風韻骨
法をのりて諸職の本本あり
るに画本あり

同 二編 同筆 全一冊

此編ハ畧画草筆を旨とし山水
州花 滯留の人物を写し 卷末小
東海道五十二次の狂画を出せり編を
編て亦用自在をるに志ありとあり

蕙齋鹿画 初編 全一冊

鉄形紹真先生筆

先生ハ畧画小妙を得て之筆の巧
世小知る所此畫画ハ晩年小至り
工画をまづる一画本あり

同 二編 紹真先生遺草 梅亭先生嗣筆 全一冊

同 三編 同 漢齊翁嗣筆 全一冊

同 四編 同 源輝先生嗣筆 全一冊

同 五編 同 漢齊翁嗣筆 全一冊

五

文鳳鹿画 全一冊

文鳳先生筆

一流の筆意絶妙なる其風韻骨格
意味深長にして畫小妙あり此画
譜ハ後ハ筆法を旨とせり此
るに画家の臨本あり

金氏画譜 大本 全一冊

九峰寄田延選撰

此画譜ハ漢画必用の臨本あり宋明
の名画の筆格小倣ハ梅竹蘭の筆骨
法を委く写せし画譜あり画上の
各風韻の画を記し空翁の画傳の
如く漢画を学ぶに師小隨ふ如き書
九峰先生筆本を得て模刻せし画譜

北溪漫画 全一冊

北溪

其妙を尽されし画を学ぶ者あり
坐右小置て毎量の益ある画本あり

神事行燈 全一冊

大石真虎先生筆

此画本ハ神事祭礼の掛行燈の画小
用ひて滑筆狂画の臨本あり初学の
童児師をりある画くべき便利と云

同 二編 全一冊

一勇齋国芳先生筆

初編ハ嗣て川柳風の狂句を画き
落の筆を志したる流行の画あり

福善齋画譜 唐紙摺 全五冊

藤彰甫先生白描 巢來山先生着色

此画譜ハ笠笠翁の芥子園画傳のおと元 章甫先生模写の原板に設色を加へて 人物花鳥蘭竹小景及嘉言先生の 賛辭を載その懷本末船の画本小異 ありて妙用とするべきものなり

一筆画譜 全一冊

福善齋遺稿 為一老人嗣筆

畧画の臨本少一筆にて万物の形を 写し畧筆の奥席上小景を風韻あり 儂扇面など画小習得べきものなり

武勇魁圖會 初編 全一冊

漢齋英泉翁筆

神代の往古より武勇の譽傳れたる珍 奇畫を集め傍小技華せし書目成 志す其水傳を求る便とあり里見 大夫大内十将士の武勇の画本小 稀なる人物を模出せり童蒙の加双帯 小のく画を學ぶ小畫をのりて小童室 ありて支兩用のものなり此画本あり

同二編 同筆 全一冊

初編小冊で珍しき畫をありて幼童画 を學ぶのふふ本とあり是れ妙なるなり 此画本の編を次く武者繪の畫譜の 臨本とありて此譜職坐右小並て有益 の臨本とありて此譜の

光琳漫画 全一冊

尾形長軒家の風韻めて世小 かしを少光琳風の画本あり侍徒 深操様小見合せとありて此の

英勇画譜 全一冊

松翠軒長谷川光信筆

名將勇士の世小用へる譽を画さえ 其傍小畧傳をありて此の畫を求め 傳を考る有益の繪本あり

北雲漫画 全一冊

東南西北雲筆

前北齊老人の筆格小倣ハ画本あり 畫を筆絶めの筆法ありて初學の ため小臨本とありて住るべき画本

繪本咲分勇者 全二冊

北尾蕙齋政美先生画

源平の戦を模写し畧注を加へて此の 嬰児の爲小眞を得べきものなり此繪本の

同 大江山 全二冊

同筆

源頼光大江山酒入童子退治の變を 畧注せし画本あり四天王の人の勲功の 光景を寫し幼兒の可愛さをべき本

同 曾我物語 全二冊

同筆

河津殿野が亦沢山の角力より曾我兄弟 敵祐徑を討て画き寫し其畧を 加へ童蒙の爲小専用の繪本

田家 奇偶 春雨日記 初編より 全十二冊

為永春水作 漢齋英泉画

此物語は春水翁一家の口調にて流行の人物を筆小に世男女の状態を以て勅巻巻の如く小道ひく冊子二世の中男女の色情不迫り亦素して旅行の一事方苦の如くあふ憂感の男好思ふと書きたる一冊前婦夫の志小に合ふ天福の巻を解きたる

光瀟 玉うさぎ 前同 全十二冊

為永春水作 歌川国直画

月老の名小く玉兔とや歌やらん人情世態世の中の意ハ思業の外との心も迷ふも悦もさす小ありて哀慕小迫り佳致のこころ今あつたを思ふ小示さんとて是も春水翁見せしき小はなす中あり

此娼 俗談 春色袖之梅 自初編より 全十二冊

為永春水作 漢齋英泉画

廓中の袖の梅ハ二日酔をさる此袖の梅ハ男女情状の迷を覚て内巻者の心を引く色男の志実を素衣の箱入小く其夫の秘小合ふ其久情を合奏小然あいて二葉線の如く面白き時花唄の文句も當世流小くぬをりては小童の為の勅巻巻を教諭之ちるち男女の情態ありの如く小春水翁志趣ハ例の筆癖の如くは小冊子あり

風流 小田の春 同作 全十二冊

此世奴の實際を處女小く是准ハ屋張町の物乃小延伸といふ名義の家名を内巻子小吉と古今奇代の文あり又その文子の文智小むむを今小くする新趣向の一大奇書あり

大日本國郡全圖 彩色摺 全二冊

此六余所の全圖ハ、小徑國の大業小をある人をして地の理を知らしめ或ハ遊歴の客廻國頃時の人々勝景古跡を探り神社佛閣らんどもを尋ふ必用の書小して比年東路箱の撰小くその表海内小公家と受を計り累年の夫を以て終小大成ハあり其各國の郡縣村落山河小くする書小く著色を以て分り一覽せる小易くし其分明ある事恰も暗中小燭を得たりた小掌中を照らすごとく詩は乾坤を知る事眼小く小懸然として寔小く一奇書ありの仙家縮地の術も是小く及ぶとて小戸を去る一々天下を志るといふ古語も嘗て此冊子の為小くある

書肆

尾州名 屋守町通七丁目 永樂屋東四郎 出店

